



Marine  
Stewardship  
Council



# MSCサステナブルな白身魚年報

市場データ、イノベーション、および海を守るパートナーの声

# サステナブルな白身魚：世界の水産業を牽引

白身魚はMSCプログラムにとって先駆的な存在です。世界の市場でMSCラベルが初めて付いた魚種には、ニュージーランドのホキ、南アフリカのヘイク、アラスカのスケトウダラがあります。これらのMSC認証取得漁業と、多様な用途に使用できる人気の高い白身魚が、過去25年以上にわたるMSCプログラムの成長の礎となったのです。こうして、市場は第三者機関によって認証された持続可能な漁業で獲られた水産物を調達でき、消費者はMSCラベル付き製品を購入することで海洋環境の改善に貢献できるようになりました。

この年報では、認証取得に関する事例と主要なデータを踏まえながら、白身魚漁業の長年にわたる実績を紹介します。これらの漁業は、MSC認証制度ができた後、早い時期に漁業認証を取得しましたが、その後も、世界的にも高いレベルでの最優良事例としてあり続けてきました。それぞれの漁業は、継続的に長期的な見通しを立て、確実な取り組みを行ってきました。それによって、私たちの海は持続的に管理され、水産業に携わる人々の雇用が守られ、将来の世代のために水産物が保護されるのです。

こうした努力の積み重ねの結果、より広範な種類の魚を漁獲しているほかの多くの漁業も認証の取得を目指すようになりました。今では、水産メーカーは調達の中心に認証水産物を据えることができ、漁業は認証を取得することでビジネス上の利点を見出し、消費者はMSCラベル付き製品を選ぶことで、認証を取得した企業や漁業を支えるという大きな役割を果たしています。

数字を軽視することはできません。認証取得漁業による2023年の白身魚の漁獲量は600万トン以上にのぼり、これは天然白身魚全体の74%に相当します。水産メーカーや小売業者は、冷凍切り身から調理加工済み食品まで幅広いMSC認証製品を消費者に提供していることから、マダラ、スケトウダラ、ハドック、ヘイク、セイス(シロイトダラ)などの需要が高まっています。

MSCは、世界で最も優れた管理が行われている白身魚漁業との提携を誇りに思います。パートナーの皆さんの努力と献身的な取り組みにより、MSC認証の白身魚のサプライチェーンは、四半世紀前に比べてより強固なものになりました。数多くの改善が実施され、今後も継続的に行われます。MSCの「変化の理論(セオリー・オブ・チェンジ)」を積極的に実践することで、誰もが水産物を楽しみながら、海の未来を守る役割を果たすことができるようになります。

# MSC認証取得漁業による白身魚漁獲量の増加

74%

世界の白身魚の漁獲量のうち、  
MSC認証取得漁業による漁獲量

4%

世界の白身魚の漁獲量のうち、  
漁業改善プロジェクト(FIP、ベーシック  
または包括的)に参加している  
漁業による漁獲量

21%

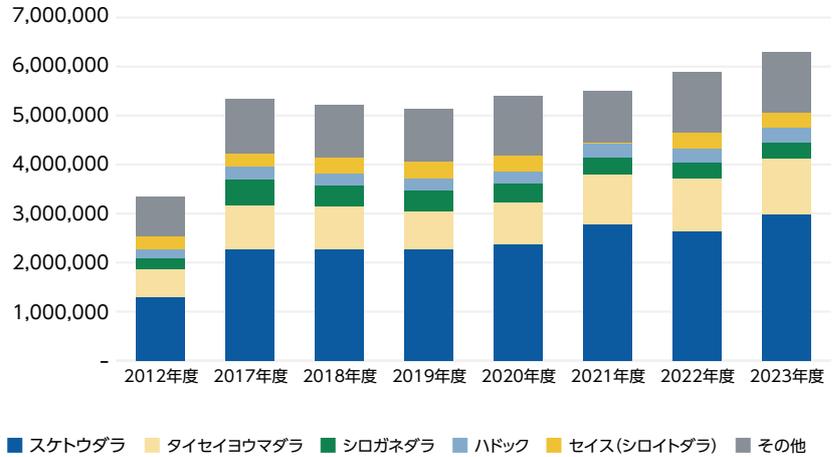
世界の白身魚の漁獲量のうち、  
MSC認証取得漁業、認証審査中漁業、  
FIP参加漁業のいずれにも  
該当しない漁業による漁獲量

MSC認証漁業への移行プログラム参加漁業および認証一時停止中の漁業による漁獲量を除く

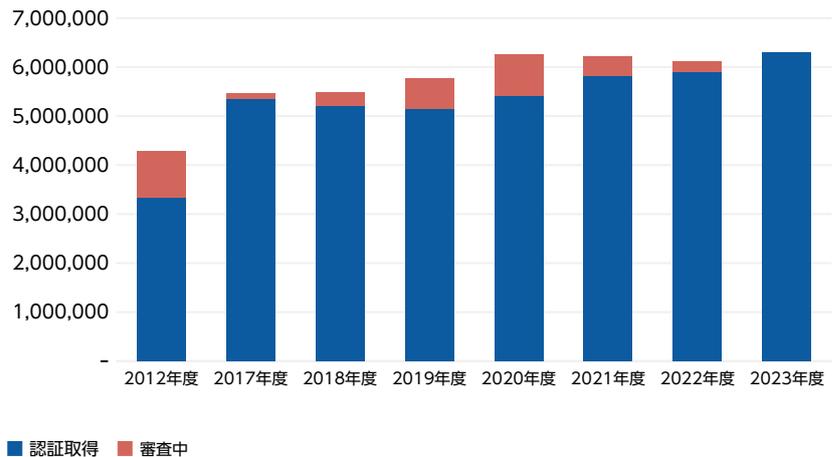
「消費者にとってサステナビリティはますます重要なものになっています。魚がどこでどのような方法で獲られたかをみんなが知りたいと望んでいるのです。私たちもそれを100%支持しています」

ニュージーランド、Sealord社  
CEO ダグ・ポーリン氏

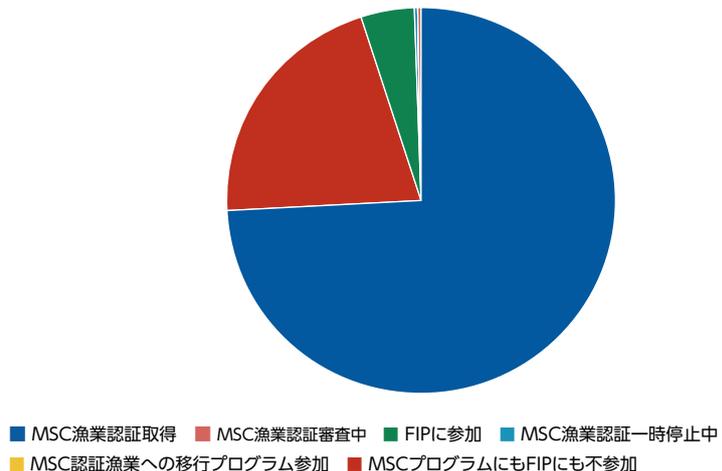
MSC認証取得漁業による白身魚漁獲量(トン)



MSCプログラム参加漁業による白身魚漁獲量(トン)

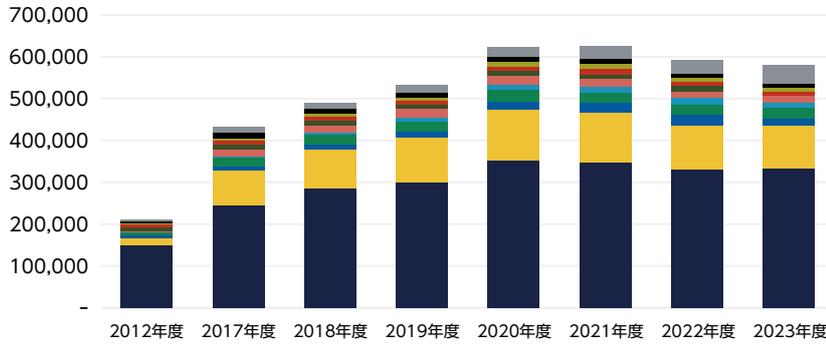


漁業のステータス別白身魚漁獲量(2023年度末時点)



# 勢いのある市場

MSCラベル付き白身魚製品の重量 魚種別(トン)

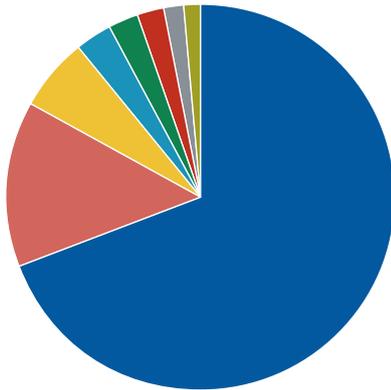


■ スケトウダラ ■ タイセイヨウマダラ ■ セイス(シロイトダラ) ■ ハドック ■ シロガネダラ  
■ マダラ類(複数) ■ ケープヘイク ■ タイハイヨウマダラ ■ コガネガレイ ■ ホキ ■ その他

白身魚販売重量  
上位10カ国

国名	白身魚重量 (トン、2023年度)
ドイツ	112,264
フランス	104,119
イギリス	97,584
アメリカ	68,599
イタリア	42,164
複数国	33,884
ポーランド	18,776
スペイン	16,208
ポルトガル	15,453
スウェーデン	15,380

MSCラベル付き白身魚製品 製品形態別 2023年度



■ 冷凍品 ■ 冷蔵品  
■ 外食関連 ■ ペットフード ■ すり身 ■ 調理加工済み食品 ■ 鮮魚売場 ■ その他

istock

# 世界におけるMSCラベル付き 白身魚製品の市場と魚種

381

MSCラベル付き  
スケトウダラ製品を  
販売する水産メーカーの数

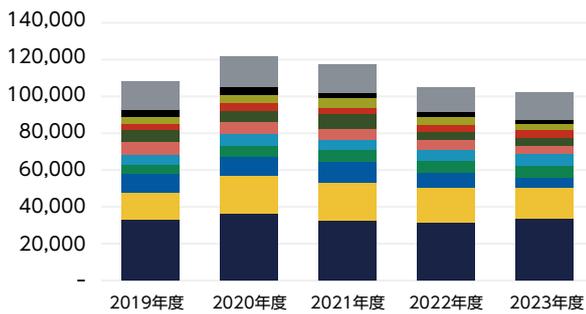
442

MSCラベル付き  
タイセイヨウマダラ製品を  
販売する水産メーカーの数

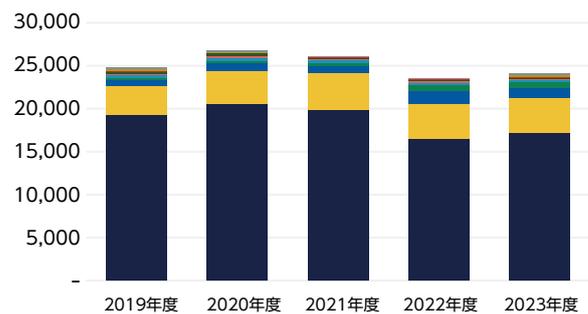
155

MSCラベル付き  
セイス(シロイトダラ)製品を  
販売する水産メーカーの数

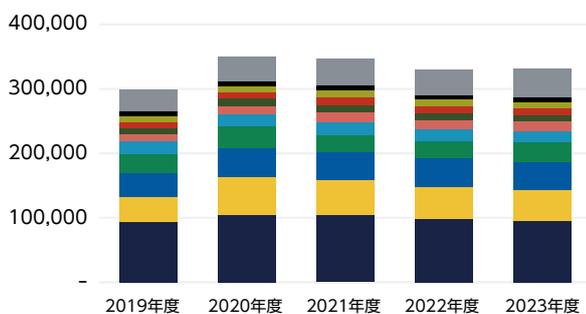
MSCラベル付きタイセイヨウマダラ製品(トン)



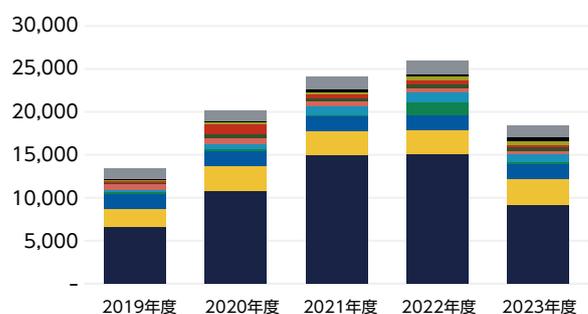
MSCラベル付きハドック製品(トン)



MSCラベル付きスケトウダラ製品(トン)

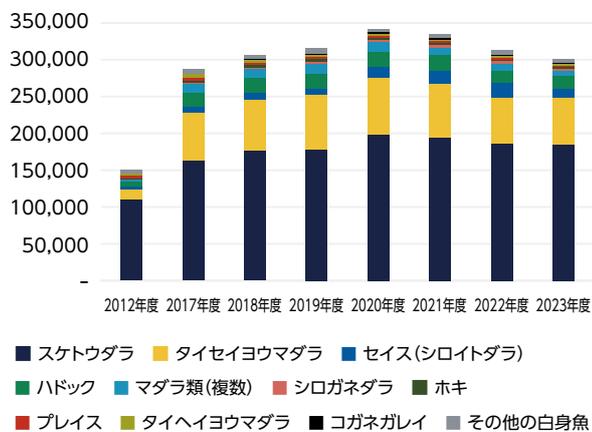


MSCラベル付きセイス(シロイトダラ)製品(トン)

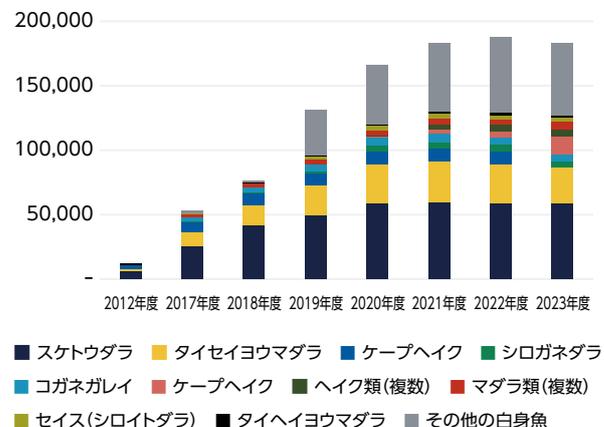


# 地域別のMSCラベル付き白身魚製品の重量

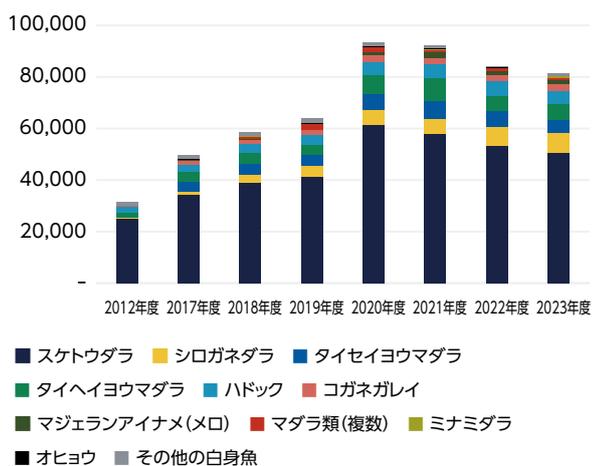
## 北欧、中欧のMSCラベル付き製品の重量(トン)



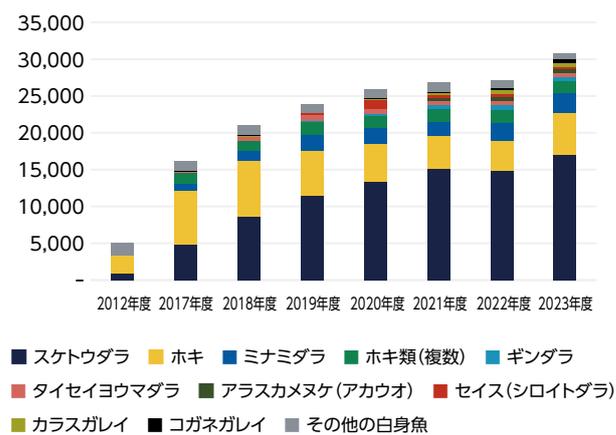
## 南欧、アフリカ、中東、南アジアのMSCラベル付き製品の重量(トン)



## 南北アメリカのMSCラベル付き製品の重量(トン)



## アジア太平洋地域のMSCラベル付き製品の重量(トン)



Shutterstock



# 日本における MSCラベル付き白身魚製品の動向

2023年度に日本国内で販売された消費者向けMSCラベル付き製品の重量は約19,900トンで、そのうち白身魚関連製品の重量が12,100トンと全体の60.8%を占めています。

2019年度は9,890トンであった消費者向けMSCラベル付き白身魚関連製品の重量は、2020年度には12,000トンを超え、2021年度には13,394トンまで増えましたが、その後2022年度から23年度にかけてやや減少しました。この減少については、新型コロナウイルスの感染拡大やインフレなどが理由であると考えられます。

魚種別でみると、練り製品、魚卵、白身フライなどの製品で使われているスケトウダラが圧倒的に多く、2020年度以降10,000トンを超えて推移しており、2023年

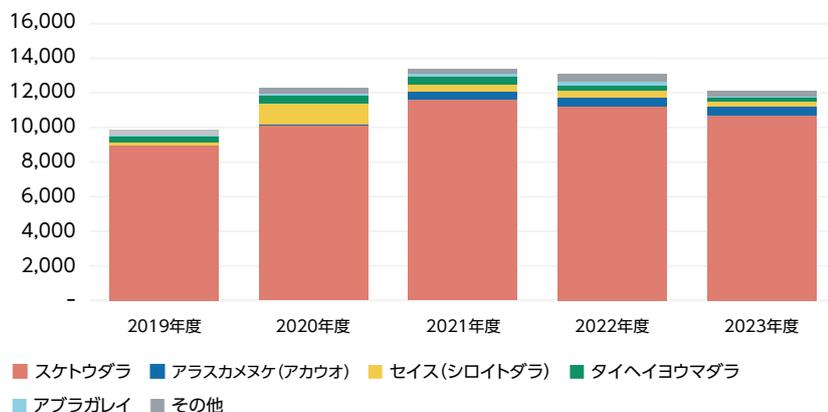
度は88%を占めています。2021年度から500トン前後で推移しているアラスカメヌケがこれに続き、次いでセイス(シロイトダラ)が300~400トンで推移しています。400トンを超えていたマダラは2023年度に211トン(1.7%)にまで減少しています。また、アブラガレイが100~200トンで推移しています。

白身魚関連製品をカテゴリー別にみると、すり身製品(ちくわ、フィッシュソーセージ、カニカマなど)と加工済み冷凍品(白身フライ、煮つけ、切り身など)の2つが多く、それぞれ29.7%、29.3%を占めています。外食向けの製品(白身フライや切り身)がこれらに次いで多く22.6%を占め、次いで持ち帰り用製品(おにぎりなど)が12%、加工済み冷蔵品(魚卵や煮つけなど)が6.2%となっています。



# 日本におけるMSCラベル付き 白身魚製品の動向

日本におけるMSCラベル付き白身魚製品の魚種別販売量(トン)

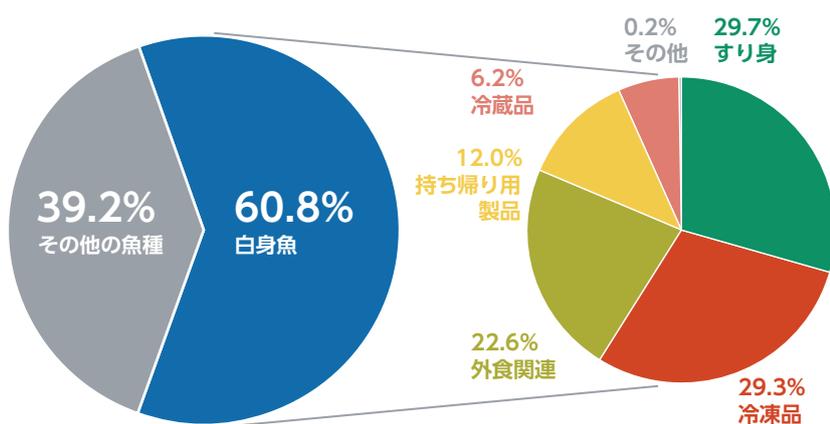


282品目

約12,100トン

2023年度に日本国内で販売された消費者向けMSCラベル付き白身魚関連製品の品目数と重量

日本におけるMSCラベル付き白身魚製品の製品形態別販売量(トン)



# 2030年への道筋

MSCの設立初期から、水産物の持続可能性の証として白身魚は欠かすことのできない存在でした。現在、MSC漁業認証を取得した漁業、審査中漁業、MSC認証漁業への移行プログラム参加漁業(ITM)\*で獲られた水産物の半数以上を白身魚が占めています。

持続可能な漁業で獲られたマダラ、スケトウダラ、ヘイク、ハドック、その他の主要な白身魚は、健全で生命にあふれる海を保護することにおいて中心的な役割を果たしています。2030年までに世界の天然水産物の漁獲量の3分の1以上をMSCプログラム参加漁業によるものにするというMSCの目標を達成するためにも、白身魚は欠かすことができないものです。

## 模範的な漁業

長年にわたり高いレベルの漁業管理を維持してきた白身魚漁業は、成長を続ける持続可能な水産物の世界市

場の構築に貢献しました。過去3年間だけを見ても、認証を取得した白身魚漁業において136の改善が実施され、生態系と生息域、絶滅危惧種・保護種の保全や、混獲の減少に寄与しました。

2030年に向けて、MSCはこれらの漁業による改善と進捗を分析し、MSCの目標を達成するための取り組みに活かしていきます。

## 目標の達成

2030年に向けた目標は野心的なものです。世界人口が増加し続ける中、健康的かつ生産時の二酸化炭素排出量が少ないタンパク源を供給するためには達成しなければならない目標です。MSCプログラムに参加している203の白身魚漁業は、世界の食糧安全保障に貢献し、漁業で生計を立てる人々を支えることができます。





「私たちのビジネスは持続可能な水産物の調達なしには成り立ちません。海洋資源の利用は慎重に行わなくてはなりません。私たちが持続可能な認証水産品の数を継続的に拡大させているのはそのためです」

ドイツ、Deutsche See社  
広報部長 アンドレアス・クレマー氏

MSCの目標を実現することで、SDGs(国連の持続可能な開発目標)の目標14「海の豊かさを守ろう」の達成にも貢献することができます。水産物の中でも主要な魚種である白身魚はその目標を達成するための中核となります。

### 課題の克服

それでもなお、逆風に直面することもあります。海では、生態系の変化と気候変動によって水産資源の移動がこれまで以上に起きています。このような脅威に対処する場合、特に管轄海域について考慮しなければならないときには、慎重な管理が求められます。

MSCが行った2024年の消費者調査の結果では、多くの消費者が、気候変動と過剰漁獲による影響で20年後には好きな水産物を食べられなくなってしまうのではないかと懸念を抱いていることがわかりました。

市場の観点では、近年のインフレと生活費の高騰が、水産業界と消費者の双方に大きな影響を与えています。それでも、冷凍や冷蔵といった特定の部門の白身魚製品の販売は堅調を維持しています。また、大きな成功事例もあります。2023年、中国マクドナルドは中国全土の5,000店舗でMSCラベル付き水産物の提供を開始しました。これは、ヨーロッパ大陸、北米、日本における同様の取り組みに追従するものです。

### 協力して取り組む

白身魚漁業がMSC漁業認証規格を満たしているのは、認証取得漁業にとって核となる要素を理解し、持続可能性への継続的な取り組みを実証するために水産業界と政府が力を合わせてきたからです。白身魚漁業がMSCプログラムに携わりながら、25年以上も発展を続けてきたことは、長期にわたって取り組み続けることの重要性を示すものです。

MSCのミッションは、持続可能な水産品に対する消費者の需要を活性化し、市場のもたらすポジティブな影響力を利用することで、さらなる参画を促し、海の豊かさを守ることです。2030年に向けた目標達成に白身魚製品が貢献するために、MSCに携わるサプライチェーンのすべての人々が重要な役割を果たしています。

MSCは大切なパートナーとともに、さらなる成功事例を重ねつつ新たな市場機会を見出し、次の10年間の課題に取り組みながら、生命にあふれる海を守っていく所存です。

\*「MSC認証漁業への移行プログラム」(ITM)は終了し、2024年10月29日から「MSC漁業認証取得に向けた改善プログラム」(MSC改善プログラム)になりました。

# 持続可能な白身魚に関わる方々の声

MSCのパートナーの皆さまからの声を紹介します。皆さまの知見は、MSCにとっての優先事項を再確認し、過剰漁獲の根絶と将来に向けた水産資源の保全というMSCのミッション達成につながります。

「持続可能な漁業を行うことが私の関心事です。これは科学にのっとった取り組みでなければなりません。ハドックについては、安全な量だけを漁獲しています。資源量に影響が及ばないように努めています」

スコットランド、ハドック漁師兼船長  
アンドリュー・ブレムナー氏

「New England Seafood社にとってマダラとハドックは重要な魚種であり、持続可能な管理を行っている漁業からこれらの魚種を調達し供給しています。私たちは調達に関して、お客様からの最低限の要求事項を満たすだけにとどまらず、購入の際に持続可能性をより重視するようになったお客様の希望に沿えるよう真摯に取り組んでいます」

イギリス、New England Seafood International社  
グループ調達ディレクター  
ドミニク・コリンズ氏

「世界最大の白身魚漁業がアラスカのスケトウダラ漁業。当社は60年以上にわたりこの良質なタンパク源を世界に供給し続けているが、それを支えているのがMSC認証。これからも持続可能な資源として、アラスカのスケトウダラ製品で世界の人びとを笑顔にしたい」

マルハニチロ株式会社  
取締役 常務執行役員 水産資源セグメント長  
舟木 謙二氏

「持続可能性への取り組みを避けることはできません。現在そして将来の世代のために価値ある水産品を提供するという信念とともに私たちが歩み続けられるのは、持続可能な漁業で獲られた白身魚があればこそです。私たちは常に現状を改善するために努力を続けていますが、改善できることはまだまだたくさんあります」

ドイツ、FROSTA AG社  
役員会会長  
フェリックス・アーラー氏

「私たちは企業として水産業に長期的な視点で取り組んでいます。再生可能な資源というものは、持続可能な方法によるのみ可能となるのです」

カナダ、Ocean Choice International社  
サステナビリティ&エンゲージメント統括責任者  
キャリー・ボネル氏

「漁業から加工、販売まで、世界に張り巡らせた白身魚のバリューチェーンは当社グループのグローバル戦略上の最大の強みです。価値創造の源泉となる水産資源の持続性確保は極めて重要だと考えています」

株式会社ニッスイ  
取締役 執行役員 海外事業執行  
浅井 正秀氏



Marine  
Stewardship  
Council



ニュースレターの  
お申込みはこちら



@MSC\_Japan



@MSCJapan



@mscjapan

画像の著作権は特に明記されていない限り、MSCが有しています。  
Registered Charity number: 1066806. Registered Company number: 3322023.  
© Marine Stewardship Council 2024